

技術情報

長崎県病害虫防除所長

平成17年度病害虫発生予察 技術情報第2号

いちご 炭疽病の防除対策（親株、育苗床）について

県内のいちご本圃で炭疽病が多発生しています。原因として、潜在感染株の定植と本圃の病原菌による汚染などが考えられます。現在次年度用の親株が定植されていますが、炭疽病対策には健全親株からの採苗が最も重要となりますので、下記の点を参考にして親株、育苗床の防除指導を行って下さい。

記

1. 炭疽病について

炭疽病には従来の「炭疽病」（病原菌：*Glomerella cingulata*）と俗称「葉枯炭疽病」（病原菌：*Colletotrichum acutatum*）の2種類がある。発病条件や防除薬剤が若干異なる。

従来の炭疽病の生育適温は28～30、最低7、最高35であるが、俗称：葉枯炭疽病はやや低い。しかし、いずれも窒素過多などで軟弱な株は感染しやすく、風を伴う雨の後に発生が多い。従来の炭疽病は、クラウン部を褐変し枯死させるため、定植後に発病したものは収穫不能となるため注意が必要である。

現在、本県で作付が増加している「さちのか」は、従来の炭疽病に罹病しやすい。

2. 発生状況

12月上旬の巡回調査の結果、発生圃場率は7.4%（平年0.8%）、発病株率は0.020%（平年0.003%）と平年より高く、定植後の10月以降高く推移している（図1）。これは、定植後の気温が平年より高く推移したことなどの理由で、本圃で枯死株が発生していると推測される。

病害虫防除員からの調査報告では、12月に入り着果負担等の理由で枯死株が発生しているが、気温の低下にともない発病株は増加していない。

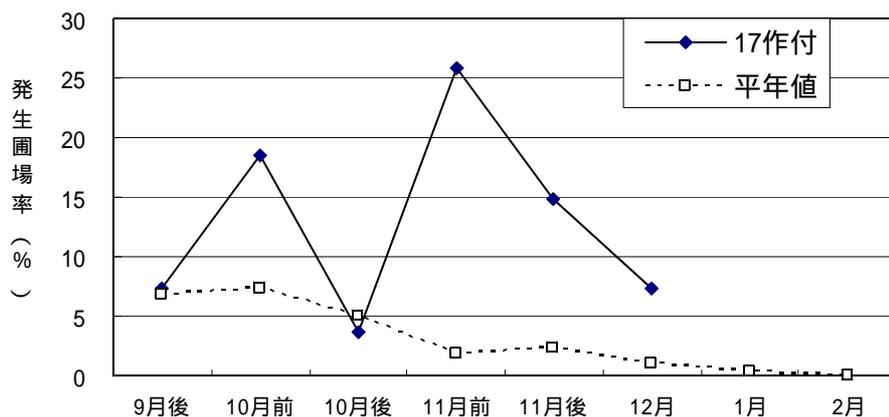


図1 炭そ病発生圃場率の推移(巡回調査)

3. 防除対策（近年問題となっている従来の炭疽病を主対象とした対策）

(1) 伝染方法

(第1次伝染源)

秋に感染し、外見上は健全に見える親株（潜在感染株）・・・気温が低いいため、発病しにくい前年の被害残さを含んだ土壌（汚染土壌）



(第2次伝染源)

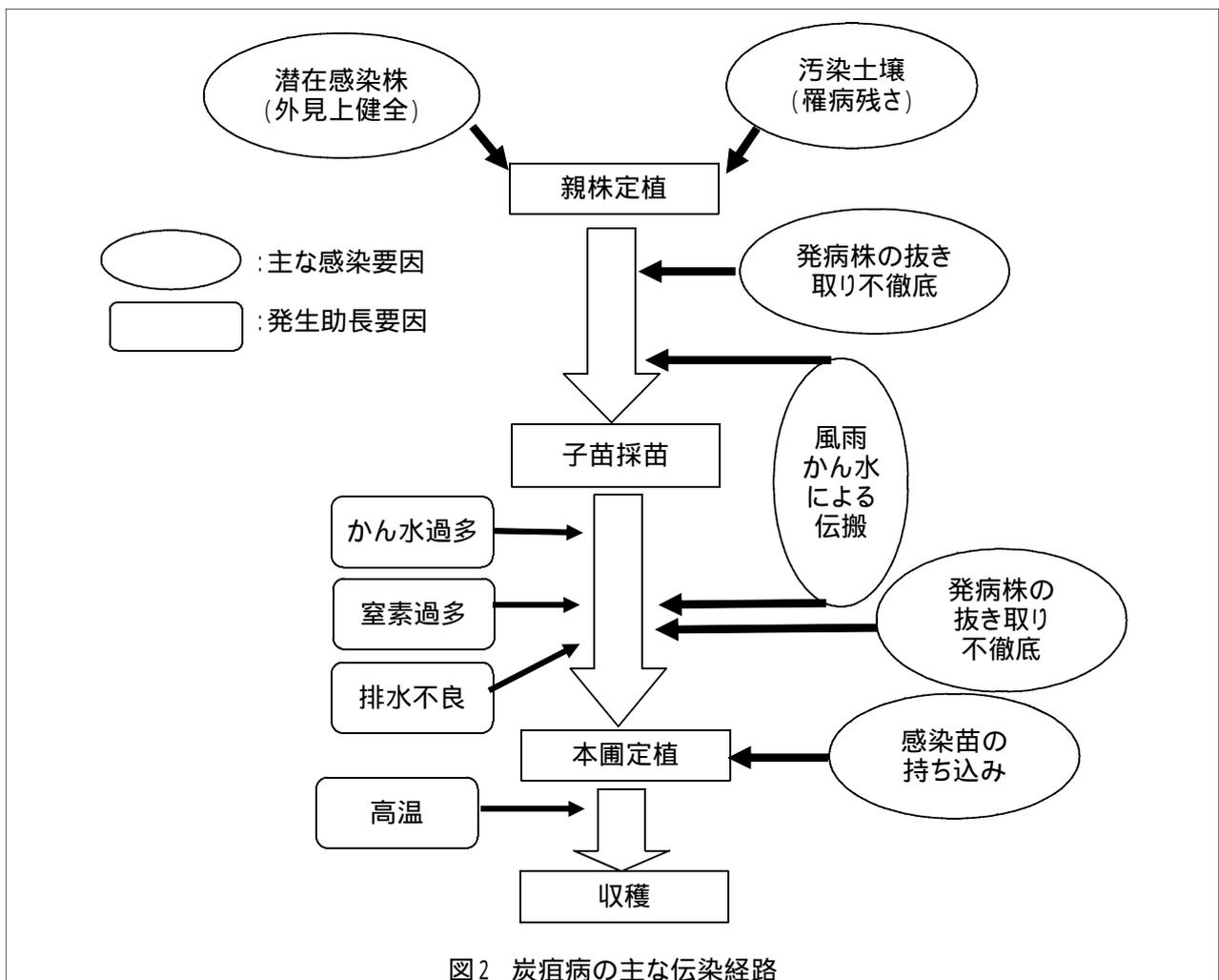
発病親株・・・秋感染したものが、翌年の春に発病する

発病子苗



分生胞子が風雨により飛散・・・風だけでは伝染しない。かん水や雨が関係する「水はね」や「泥はね」によって伝染する。

感染の拡大



(2) 第1次伝染源の除去（親株）

土壌消毒の徹底（親株床）・・・前年親株の罹病残さを除去し、消毒する。

健全親株を使用する。

親株定植後、古葉には炭疽菌が感染している可能性があるため、ランナー発生前に摘葉する。
感染親株の除去・発病株の早期除去

感染した株（生育の悪い親株、ランナーの発生の少ない親株）および発病株は除去する。
（ランナー発生前に肥料と水が不足すると生育が悪く、ランナーの発生も少なくなり、罹病した株と見分けにくくなるため適正な栽培管理が必要）

(3) 感染の拡大防止(育苗床)

圃場の排水対策の徹底・・・冠水しないように溝は大きく、深くする。

全面マルチ被覆・・・高設育苗でも棚下のマルチ被覆を行う。

多肥育苗しない・・・窒素過多の株は感染・発病しやすい。

育苗資材の消毒・・・汚染の恐れがある育苗ポット等の資材は消毒して用いる。

防除開始時期・・・気温が20℃前後(4月上旬頃)になると本病原菌の胞子の飛散が認められ始めるので、その前の早い時期から予防的な散布を開始する。

薬剤防除の徹底・・・10～14日間隔でのローテーション散布を行う。また、風雨前後は防除を徹底する(特に台風時)。さらに、葉かぎの後の傷口からも感染しやすいので、葉かぎ後は必ず防除を行う。

ランナーの切り離し時期・・・入梅前には採苗を終了する。

苗の間隔・・・苗は均等配置し、間隔をあける。

かん水方法など・・・かん水は適正に、極力跳ね上がりを少なくする水やりを行う。また、夕方までに株元を乾燥させる。さらに、ビニルによる雨よけ育苗は防除効果が高い。

発病株の除去・・・発病の有無を随時観察し、発病株ならびに周囲の胞子飛散のおそれがある株は直ちに除去する。また、その周辺を丁寧に薬剤防除し、その後も注意深く観察し、発病を確認したら除去する。

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

「防除所ホームページ」を利用して、ながさき農林業総合情報システム(一部会員制、アドレス：<http://www.n-nourin.jp/>)やその他の情報を閲覧することができます。

この情報に関するお問い合わせは、電話またはEメールでお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027， Eメール：kngs0301@sp.jppn.ne.jp